

令和3年3月期 中間決算情報

令和2年12月18日

会社名 **首都高速道路株式会社** 上場取引所 非上場
 U R L <http://www.shutoko.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮田 年耕
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 増根 泰 (TEL)03(3539)9297
 半期報告書提出予定日 令和2年12月18日
 中間決算補足説明資料作成の有無 : 有・無
 中間決算説明会開催の有無 : 有・無

(百万円未満切捨て)

1. 令和3年3月期中間期の連結業績 (令和2年4月1日～令和2年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は、対前年中間期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
3年3月期中間期	169,852	△4.4	5,788	31.5	5,893	32.5	4,328	54.4
2年3月期中間期	177,643	6.2	4,403	1.2	4,449	△1.4	2,803	△4.9

(注) 包括利益 3年3月期中間期 4,766百万円 (50.4%) 2年3月期中間期 3,170百万円 (△6.0%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
3年3月期中間期	160.30	—
2年3月期中間期	103.84	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
3年3月期中間期	286,036	69,559	24.1	2,556.11
2年3月期	368,189	64,792	17.5	2,380.66

(参考)自己資本 3年3月期中間期 69,015百万円 2年3月期 64,278百万円

2. 令和3年3月期の連結業績予想 (令和2年4月1日～令和3年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	440,531	△17.6	△1,413	—	△1,352	—	△2,102	—	△77.87

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有・無

※ 注記事項

(1) 当中間期における重要な子会社の異動（連結範囲の変更に伴う特定子会社の異動） : 有・無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有・無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 有・無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 有・無
 ④ 修正再表示 : 有・無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	3年3月期中間期	27,000,000株	2年3月期	27,000,000株
② 期末自己株式	3年3月期中間期	-株	2年3月期	-株
③ 期中平均株式数(中間期)	3年3月期中間期	27,000,000株	2年3月期中間期	27,000,000株

(個別業績の概要)

1. 令和3年3月期中間期の個別業績（令和2年4月1日～令和2年9月30日）

(1) 個別経営成績 (%表示は、対前年中間期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
3年3月期中間期	168,287	△4.1	5,444	58.9	6,223	56.1	5,055	73.3
2年3月期中間期	175,493	6.1	3,426	△12.2	3,987	△9.9	2,917	△10.8

	1株当たり 中間純利益
	円 銭
3年3月期中間期	187.25
2年3月期中間期	108.03

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
3年3月期中間期	261,495	58,808	22.5	2,178.10
2年3月期	347,497	53,752	15.5	1,990.84
(参考)自己資本	3年3月期中間期	58,808百万円	2年3月期	53,752百万円

2. 令和3年3月期の個別業績予想（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	435,952	△12.5	△3,286	—	△2,472	—	△2,489	—	△92.21

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・前述の連結業績予想及び個別業績予想に記載している数値は、当社が現在入手している情報を基礎とした判断及び仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確実性及び今後の事業運営等による変動可能性に照らし、将来における当社の業績と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間期の連結業績等に関する定性的情報.....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報.....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報.....	4

1. 当中間期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

① 当期の経営成績

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、企業収益や雇用情勢等を中心に厳しい状況となりました。

こうした状況の下、高速道路事業において、お客様により安全・快適に首都高速道路をご利用いただくため、道路施設の損傷の早期発見のための点検の推進、発見した損傷の補修、自然災害への対応、走行環境の改善等に取り組んでまいりました。また、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、感染者発生時でも業務継続のための体制を構築するとともに、「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を定め、感染予防対策を実施してまいりました。

当社の利用交通量は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛要請等の影響により、前年同期比16.4%減の84.7万台/日となっております。

また、高速道路事業以外の事業として、5箇所の都市計画駐車場等の駐車場事業、首都高速道路上の20箇所のパーキングエリアの運営及び管理等を展開してまいりました。

当中間連結会計期間の業績は、営業収益が前年同期比4.4%減の169,852百万円、営業利益が前年同期比31.5%増の5,788百万円、経常利益が前年同期比32.5%増の5,893百万円、法人税等を控除した親会社株主に帰属する中間純利益が前年同期比54.4%増の4,328百万円となりました。

なお、セグメントごとの業績の概要は下記のとおりであります。このセグメント別の売上高及び営業損益にはセグメント間取引を含んでおります。

② 主な事業セグメント別の状況

[高速道路事業]

(ア) 営業収益

当社グループは、首都高速道路のネットワーク整備の推進と営業路線の清掃・点検等の適正な管理を24時間365日体制で実施しており、営業路線延長は327.2kmとなっております。

料金所周辺での渋滞緩和やお客様のキャッシュレス化による利便性の向上等を図るため、従来からETCの普及に努めているところです。ETCの利用率は、令和2年9月平均が96.2%となり、前年同月比0.4%増となっております。

また、お客様サービスの一層の向上のため、ドライバー向けの情報に特化したカスタマーサイトの運用、グリーンポスト及びお客様満足度調査等を通じて得られたお客様の要望や意見の各種改善への反映等により、サービス向上に努めてまいりました。

このような状況の中で、営業収益のうち、料金収入は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛要請等の影響により、前年同期比16.1%減の112,392百万円となりました。

高速道路の新設については、新大宮上尾道路等4路線10.4kmの整備を行ってまいりました。

また、高速道路の改築等については、長期にわたりネットワークとしての機能を維持し構造物の安全性を確保するための特定更新等工事を行うとともに、舗装の打ち替え等営業中路線において必要となる構造物等の修繕を行ってまいりました。

営業収益のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下「機構」といいます。）への資産引渡しに伴う道路資産完成高は前年同期比154.1%増の54,132百万円となりました。

以上の結果、営業収益は前年同期比7.3%増の166,589百万円となりました。

(イ) 営業利益

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛要請等の影響による料金収入の減少に伴い、機構に支払う道路資産賃借料が、変動貸付料制度の適用により減額されましたが、道路資産完成原価が前年同期を上回ったこと等により、営業費用は前年同期比6.4%増の161,126百万円となりました。また、営業利益は前年同期比41.8%増の5,462百万円となりました。

[駐車場事業]

(ア) 営業収益

都市計画駐車場及び高架下等駐車場において、時間貸し駐車、定期駐車及び月極駐車等の営業を行ってまいりました。

営業収益は前年同期比2.2%減の1,542百万円となりました。

(イ) 営業利益

営業費用は前年同期比2.1%増の1,200百万円となり、営業利益は前年同期比14.9%減の342百万円となりました。

[受託事業]

(ア) 営業収益

国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等を行ってまいりました。

営業収益は前年同期比95.7%減の837百万円となりました。

(イ) 営業損失

営業費用は前年同期比95.6%減の844百万円となり、営業損失は6百万円（前年同期は30百万円の営業損失）となりました。

[その他の事業]

(ア) 営業収益

休憩所等事業として、首都高速道路上20箇所のパーキングエリアにおいて、お客様が気軽に立ち寄れる都市型パーキングエリアの実現を目指し、八潮PA及び市川PAにおいて、リニューアル工事を実施する等、より利用しやすい施設の運営を実施してまいりました。

また、高速2号目黒線高架下賃貸施設及びトランクルーム、高速埼玉大宮線与野付近の利便増進施設、社宅跡地等を活用した賃貸住宅の運営及び管理並びに当社グループが長年培ってきた技術力を活かしたコンサルティング事業等を行ってまいりました。

営業収益は前年同期比31.5%減の1,195百万円となりました。

(イ) 営業損失

営業費用は前年同期比23.0%減の1,204百万円となり、営業損失は9百万円（前年同期は180百万円の営業利益）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、286,036百万円となり、前連結会計年度末に比べ82,153百万円減少となりました。主な要因は、有価証券が減少したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ86,920百万円減少し、216,477百万円となりました。主な要因は、道路建設関係社債が減少したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ4,766百万円増加し、69,559百万円となりました。以上の結果、当中間期末における自己資本比率は24.1%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

令和3年3月期の通期見通しとしては、料金収入については、2,355億円と前年度3月期に比して、279億円の減を見込んでいます。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛等の影響によるものです。

高速道路事業については、営業中路線において構造物損傷の削減に取り組むなど安全で安心なサービスの提供に努めてまいります。

また、駐車場事業等については、お客様のご要望に合致した施策に努めてまいります。

このような状況の中で、当社グループの連結業績は、営業損失14億円、経常損失13億円、当期純損失21億円を見込んでいます。